

幼小職員合同の研修会

南房総市立嶺南幼稚園長 藤本 雅俊



「これは困ったことになるかもしれない。」
昨年12月のEテレ「すくすく子育て」を観ていて直感した。番組では、大学教授が、子供の小学校入学に不安を持つママたちに、「①4月からは、子供たちが自分で調べたり、議論したり、発表したりする『ワークショップ型』の授業が多く取り入れられる。②（横浜市のスタートカリキュラムを例に）1年生のはじめは、生活科を中心にした合科的・関連的な指導が丁寧に行われる。③小学校の指導の仕方が、その子らしさや意欲を大事にしていこうという幼稚園の活動を見据えたものになる。」と語っていた。

小学校学習指導要領総則では、「小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。」としている。また、小学校低学年の教師が、幼稚園の教師と子供の成長を共有し、幼児期から児童期への発達の流れを理解することの大切さが述べられている。私も同感であり、小学校で一人一人の子供に即した教育を実施するには、小学校の教師が、一人一人の子供の幼稚園での育ちの実態を把握する必要があると考えている。

そのようなことを考えているうちに、私は、新入生を迎え入れる側の小学校の準備状況が心配になってきた。そして、「①各小学校におけるスタートカリキュラムの作成状況はどうなっているのか。②『我が子が小学校生活を

笑顔で送ることができるように。』と願う保護者の期待に応えられるようなものとなっているのか。」、確認するのを感じた。そこで、幼稚園と小学校の職員合同の研修会の開催を提案したところ、市内の幼稚園長と小学校低学年担任及び市教育委員会の幼児教育担当指導主事が参加して開催されることとなった。

はじめに、小学校学習指導要領の「低学年における教育全体において、（中略）幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。」を受け、「幼小の接続とは、誰が、何と何をつなぐのか。」という問題意識を各自が持ち、研修会はスタートした。その後、冒頭述べた番組を視聴し、「滑らかな接続とは、『入学するまでに、これだけにはできるようになってほしい』と望むことではない。」ということを全員で確認した。

研修後、小学校の先生方からは、「幼児期の主体的な遊びを受けて小学校の指導を行うという視点は持っていなかった。」「学習指導要領は読んだが、低学年の各教科ごとに、幼稚園の活動を見据えて、生活科を中心に合科的・関連的に行われるようにと書かれていることには気付かなかった。」といった感想が聞かれた。幼稚園側からは、「幼稚園も新しい幼稚園教育要領の下、子供の自発的な遊びによる主体的な学びを求めて、新しい保育に挑戦している。是非、子どもたちの活動を見に来てほしい。」と小学校側に提案した。

今回は、近隣の園で保育協議を開催し、小学校の先生方に幼稚園教育の実際の様子を見てもらおうと考えている。今後の合同研修の広がりと深まりが楽しみである。